

八百津探訪 2016/02/22

岐阜県八百津町は車で60キロ
ユダヤ難民救済の杉原千畝の出生地。
町役場は木曾川に面し、その4キロ山中に、
「杉原千畝記念館」がある。

総人口：11,618（内 外国人72） 2016/01/01 現在

往時は、「八百津」の名が示すように、
木曾木材の集積地で栄え、
今も「森林組合」には存在感がある。

活躍中の作家、池井戸潤の出生地でもあり、
その久田見地区は、戦前は「満蒙開拓団」の歴史。

剣豪の宮本武蔵が、巖流島の決闘後、諸国へ旅立ち、
今は町中の「大仙寺」と「正伝寺」で座禅と瞑想。

杉原千畝（1900-1986）記念館

ポーランドからリトアニアへ脱出の、
ユダヤ人6,000人の命を救った。
外務省の反対を押し切り、
日本への通過ビザ発行。
イスラエルから「建国の恩人」表彰。
リトアニアのカウナスに「スギハラ通り」あり。

英語表記の当時の資料には、
Chiune Sugihara と Senpo Sugihara がある。

両親との幼少写真では、母親が眉目秀麗の、

かなりの賢明さのある容貌。
片道 8 キロの小学校通学で成績は「全甲」。

雑 感

- ・ 岐阜の奥田舎で生まれた少年の、
向学心と好学心の強さと実行力。
世界に誇れる尊敬できる日本人。
- ・ 当時のユダヤ人同士の情報伝達の凄さ
- ・ ソ連のスターリンによるユダヤ人殺戮の遠慮表現
ユダヤ人はドイツとソ連に挟み撃ちにされていたが。
- ・ 日本外務省は表向きには杉原を非難したが、
さじ加減があり、杉原の行動を可能にしたようだ。
- ・ ホロコーストを経験したイスラエルが、
パレスチナ人への、国連決議さえ無視する、
容赦なき攻撃と殺戮。
これが、今の「イスラム国」誕生への導火線となり、
被害者が加害者になり替わる歴史の皮肉さ。

ユダヤ難民と神戸

小学生の頃、神戸の北野地区には、
神戸在留のユダヤ難民家族が散見され、
大学生の頃、知己となったPさん（未亡人女性）も
白系ロシアのユダヤ人で、
木下昇兄や海本昌造兄もご存じの女性。

小生は、ロシア訛の英会話を習い、
その後、その一人息子D君の家庭教師。
Marist Brothers へ通学しており、
数学を教えた（教科書は英語ですぞ！）
もっとも、こちらの方が勉強になったが。

ある日、彼が言うには、校長が彼に
「あの日本人と付き合ってははいけません」
三宮阪急の北側を帰宅中に、D君に出会い、
立ち話をしたのを校長が偶然に目にしたらしく、
彼への忠告となった。
教育者は「人を見る目がない」と痛感。

後年、
名古屋の国際見本市会場の「オーストラリア館」で、
アテンダントの外人と立ち話をし、
名刺を交換して、「大使館商務官」とあり。
驚いたことにはD君であった。
色白で細くスマートで、イケメンだったのが、
きちゃない太っちょのおっさんに。

彼は、一見して小生と分かったと言う。